

「災害から生き抜くために、今、わたしたちができること」

25年前の平成7年1月17日は、阪神淡路大震災が起こった日です。被害の様子を神戸新聞 HP より引用しました。テレビや新聞、ネットニュースでも震災関連の話題が多い1週間です。ぜひチェックを。



自然災害を完全に予測したり、防いだりすることはできませんが、備えることはできます。今、どんな行動をとりますか？

死者数	行方不明者数	負傷者数	住宅被害	焼損棟数
6,434人	3人	43,792人 うち重傷 10,683人	639,686棟 うち全壊 104,906棟	7,574棟 うち全焼 7,036棟

イメージしてみよう！阪神淡路大震災と同じ「震度7」の地震が起きたら、どうなるだろう？
これから数回に渡って、シリーズでお伝えします。

直後 → 数分後 → 数時間後 → 翌日 → 数日後 → 数週間後 → 数か月後

今回は、この時の対応の仕方を紹介

地震発生

揺れの最中

まず、命を守る行動を！



正しい手当で、被害を最小限に！

揺れが収まる



出血している部位をハンカチ等で圧迫。
感染予防のためにビニール袋等あれば使用。
心臓より高くする！

裏面の「身の回りのもの
を利用した応急処置」を
チェック！

先生の指示を聞いて、落ち着いて避難する

避難する



先生や校内放送の指示を聞いて、避難する。続けて地震が起こる場合もあるので要注意！
負傷者や体の不自由な人がいれば、搬送の手助けを。中学生は、助ける側になることができます！

身の回りのものを利用した応急処置（災害時の便利アイデア）

【骨折した時】



傷があるときはまずその手当てをします。
骨折部に副木をあて、副木が動かないようにして骨折部の両側の関節も固定します。
骨折したときにちょうど良い副木があるとは限りません。身の回りで利用できるものを見つけておきましょう。

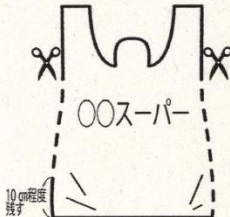
〈副木に利用できるものの例〉

【買い物袋を利用した腕の吊るし方】

①買い物袋を1枚用意します（大きめのものの方がいいです）。



②買い物袋の一方の横側を底まで切ります。もう一方の横側は、底から10cm程度残したところまで切ります。手で切ることができるので便利です。



③固定した腕は、底まで切った側が手首のほうに来るようにして買い物袋に通します。底から10cm程度残した側は、からだ側に来ます。



④腕を通したら、取っ手の部分を重ねて首に掛けます。

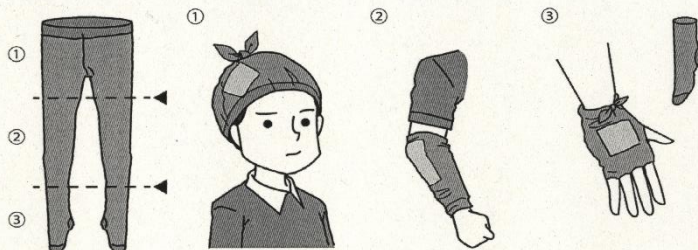


⑤腕が水平になるように長さを調節します（吊るされて一番楽な位置で調節します）。



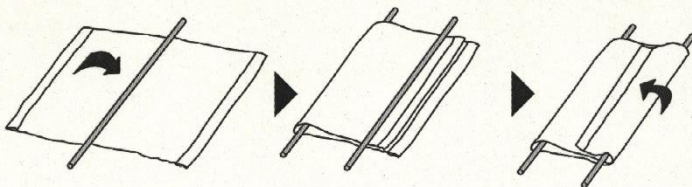
【女性のストッキングをネット包帯に代用】

女性のストッキングは、ネット包帯の代わりにもなります。

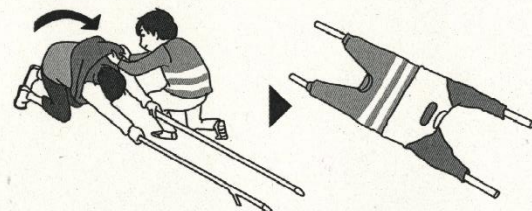


【簡易担架の作り方】

毛布と棒があれば人をのせられるタンカができます。



衣類やズボンと枝でもタンカができます。



【その他にこんなものも使えます】

- 新聞紙や雑誌…骨折時などの固定。
- タオル…ガーゼの代用品、固定補助。
- ハンカチ…ガーゼの代用品。
- 風呂敷…三角巾、包帯の代用品。
- ネクタイ…包帯の代用品。
- ポリ袋…防寒具、雨具の代用品。
- 食品用ラップフィルム…包帯の代用品、保温具。
- シーツ…包帯、帯紐の代用品。

※副木を当てたときにできる隙間には、ビニール袋に息を入れて膨らませたものが活用できます。

